

# 地域密着型金融推進の取組状況について

(平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月)

## 1.地域密着型金融推進の基本方針

## 2.具体的な取組内容について

- (1) ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化
- (2) 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底
- (3) 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

## 地域密着型金融推進の取組状況について

(平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月)

当金庫は、地域密着型金融推進の取組みに対する基本方針および具体的取組策を策定し、活動を展開しております。この度、平成 22 年度における取組状況を取りまとめましたので、お知らせいたします。

### 1. 地域密着型金融推進の基本方針

当金庫は、経営理念の一つである「地域社会の繁栄に貢献する」役割を果たすとともに、地域との共生（支えられ・支える）を図り、地域密着型金融推進に継続して取り組んでいきます。



□ 当金庫では毎年、新入職員をモデルに「元気宣言ポスター」を作成しています。22 年度は、「この街に生まれ、この街に生きる いままでも、これからも」をキャッチフレーズとし、地元とともにあるとりしんをイメージしたポスターを作成しました。

### 2. 具体的な取組内容について

#### (1) ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

##### ① 創業・新事業支援

- 創業・新事業に必要な資金面にお応えするため、信用保証協会の「新規参入資金」や「チャレンジ応援資金」などの制度資金を活用し、支援を行いました。

◇平成 22 年度 創業・新事業支援融資の取扱いは、次のとおりです。

	件数	金額
新規参入資金	21 件	303 百万円

### ②経営改善支援

- 平成 22 年度は、経営支援対象先に 28 先を選定し、営業店と経営支援部が一体となって、経営のご相談や資金繰り等の改善に向け支援いたしました。

◇経営改善支援等の取組み実績（正常先を除く）は、次のとおりです。

期初における債務者数	うち経営改善支援取組み先数	$\alpha$ のうち期末に債務者区分がランクアップした先数	$\alpha$ のうち期末に債務者区分が変化しなかった先数	$\alpha$ のうち再生計画を策定した先数	経営改善支援取組み率	ランクアップ率	再生計画策定率
A	$\alpha$	$\beta$	$\gamma$	$\delta$	$\alpha/A$	$\beta/\alpha$	$\delta/\alpha$
341	28	0	26	26	8.2%	0.0%	92.9%

- ・期初債務者数及び債務者区分は、22 年 4 月当初時点で整理しています。
- ・債務者数、経営改善支援取組み先は、中小企業者（個人事業主を含む。）であり、個人ローン、住宅ローンのみの先は含みません。
- ・ $\beta$ には、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載しています。  
なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者は $\alpha$ に含めるものの、 $\beta$ に含みません。
- ・期初の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に「うちその他要注意先」にランクアップした場合は $\beta$ に含みます。
- ・期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については（仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても）期初の債務者区分に従って整理しています。
- ・期中に新たに取引を開始した取引先については、本表に含みません。
- ・ $\gamma$ には、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先数を記載しています。
- ・「再生計画を策定した先数 $\delta$ 」＝「中小企業再生支援協議会の再生計画策定先」＋「RCC の支援決定先」＋「金融機関独自の再生計画策定先」

- 中小企業金融円滑化への取組みとして、緊急保証制度（保証協会付）を活用した融資を推進しました。

	件数	金額
鳥取県中小企業小口融資	39	176 百万円
鳥取県経営安定支援借換資金	27	620 百万円
経営活力再生緊急支援	104	1,004 百万円

- コンサルティングプラザでは、中小企業診断士・ファイナンシャルプランナーの資格を持つ職員が、様々な経営相談に取り組んでいます。

### ③事業承継支援

- 後継者支援（とりしん経営塾の開催）

中小企業の経営者が抱える事業承継問題や後継者育成問題を解決するため、経営

コンサルタント会社と提携して平成 20 年 2 月から「とりしん経営塾」を開講しています。この経営塾は、2 年間でワンクールとしており、平成 22 年 2 月から、第 2 期を開講しています。講義内容については、第 1 期の受講生のアンケート結果などを踏まえて、財務を中心としています。受講生から「明快でわかり易い」と好評であり、また、後継者同士の情報交換の場となっています。



経営塾の講義風景

## (2) 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

### ①不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資への取組み

○ 中小企業者への資金ニーズにお応えするため、信用保証協会と連携を図り、スコアリングモデルを活用した無担保・第三者保証人不要の融資商品（ビジネスプライムローン、地域活性化融資）や動産・債権譲渡担保融資などを推進しました。

◇ 平成 22 年度 新規融資の取扱いは、次のとおりです。

	件数	金額
ビジネスプライムローン	2 件	15 百万円
地域活性化融資	2 件	75 百万円
売掛債権担保融資	1 件	22 百万円

### ②企業の将来性、技術力を的確に評価できる能力等、人材育成への取組み

○ 地域密着型金融の推進には、職員一人ひとりの目利き能力が重要となります。

全信協・中信協主催の外部研修に職員を派遣し、目利き能力の向上を図りました。

た。また、内部研修として、審査部が主催する若手職員向けの「融資研修」や中堅職員を対象とした「審査トレーナー」、支店長対象の「自己査定トレーナー」を実施し、職員のスキルアップを図りました。

### (3) 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

○ 「山陰海岸ジオパーク」の「世界ジオパークネットワーク加盟」への応援取組み  
山陰海岸ジオパークのエリアは、東西約 110km、自治体も 3 府県 3 市 3 町にまたがっています。当金庫は、鳥取市に本店のある金融機関の中で、唯一鳥取県と兵庫県北部の但馬地区に支店を設置していることもあって、地域経済活性化のため、世界ジオパークネットワークへの加盟を応援してきました。

平成22年10月、山陰海岸ジオパークは、世界ジオパークネットワークへの加盟が認定されました。国内では、糸魚川、洞爺湖有珠山、島原半島に続いて4地域目の加盟となります。

《 22 年度の主な取組み 》

- ・ ジオパークエリアマップをデザインした貯金缶を粗品に採用
- ・ 当金庫創立60周年のロゴマークにジオパークをイメージした図案を採用
- ・ 鳥取砂丘除草ボランティアの実施
- ・ ジオパーク写真集を学校、図書館など136か所に寄贈
- ・ 第2回山陰海岸ジオウォークを共催 など



ジオウォークの風景



当金庫60周年記念のロゴマーク



ジオパークをPRする横断幕



鳥取砂丘除草ボランティアの実施

#### ○湯村温泉及び周辺地域観光活性化研究事業への参画

当金庫は、信金中央金庫及び但馬信用金庫と共同して兵庫県新温泉町湯村温泉地域などの観光活性化を図るため、22年9月に湯村温泉まちづくり協議会と観光活性化研究事業の覚書に調印しました。この研究事業は、温泉町観光協会をはじめ、商工会、湯村温泉旅館料飲組合、新温泉町役場など地元の協力を得て、信金中央金庫のノウハウを活用し観光資源の再発見や外部・内部環境などを分析し、23年度に活性化の提言をし、提言を踏まえた取組みが行われることになっています。



覚書調印式（9月3日、町民センターにて）